

---

NATIONAL  
D I E T  
LIBRARY  
MONTHLY  
BULLETIN  
2020.12

国立国会図書館  
月報

---



世界図書館紀行 ヘルシンキ中央図書館

国際子ども図書館開館 20 周年記念展示会 平成を彩った絵本作家たち

国立国会図書館で働いてます (終)

---

716 号 2020 年 12 月

---

# 国立 国会 図書館 月報

NO. 716  
DECEMBER  
2020  
CONTENTS

- |    |   |    |                           |
|----|---|----|---------------------------|
| 1  | 永遠の白鳥<br>—パヴロワ来日公演プログラムより<br>今月の一冊 国立国会図書館の蔵書から | 20 | 本屋にない本<br>『筆跡をきく』         |
| 5  | 世界図書館紀行 ヘルシンキ中央図書館                              | 24 | 館内スコープ<br>ウィルスには、予防が大切です。 |
| 12 | 国際子ども図書館開館20周年記念展示会<br>平成を彩った絵本作家たち             | 25 | NDL Topics                |
| 16 | 国立国会図書館で働いています no. 10 (終)                       | 27 | 年間索引                      |
| 21 | 議会開設百二十年記念 議会政治展示会                              |    |                           |



表紙：  
*Designs on the dances of Vaslav Nijinsky* by George Barbier,  
foreword by Francis de Miomandre,  
translated from the French by C. W. Beaumont  
C. W. Beaumont, 1913  
<請求記号 VA31-N3-2 >

# 永遠の白鳥 —パヴロワ来日公演プログラムより

富田 穰 治



『アンナ・パヴロワ』の表紙。各公演の共通プログラム冊子で、有料で頒布された。各地で上演される予定の演目が解説されている。



アンナ・パヴロワの肖像。  
V. Dandré : *Anna Pavlova*, Cassell 1932  
<請求記号 VA31-P3-8>  
※パヴロワの公私にわたるパートナー  
だったヴィクトル・ダンドレの著書。

## アンナ・パヴロワ

1922 ; 23cm <請求記号 VA251-1027>

## パヴロワ女史露西亞舞踊劇番組 丸の内 帝国劇場

1922 ; 18cm <請求記号 VA251-1028>

現代の日本では、多くの人々がバレエを愛好している。日本全国のバレエ学習人口は約36万人、バレエ教室総数は約4,600と推定されているうえ、外国のバレエ団による来日公演も全国で毎年100回を超える。

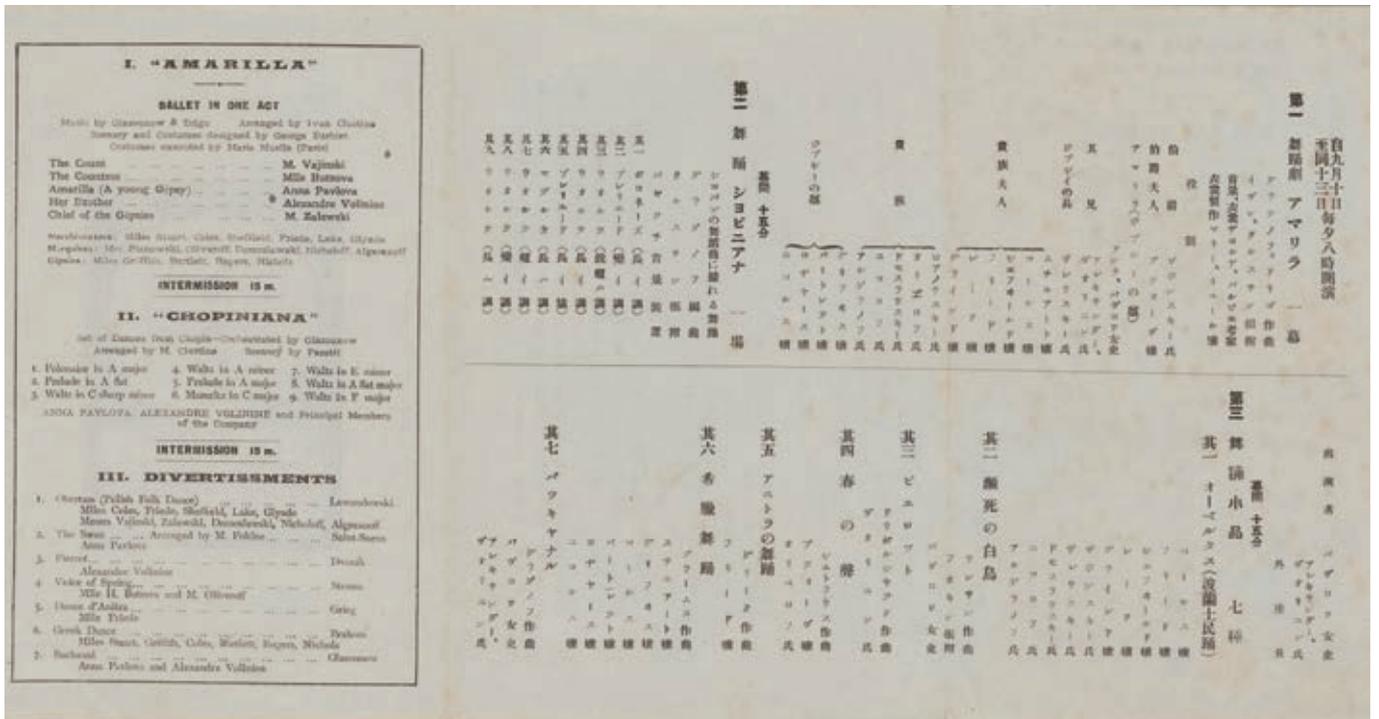
このような盛況を100年前に想像することは困難だっただろう。日本におけるバレエの歴史は、大正元(1912)年8月、イタリア人のバレエ教師、振付師、オペラ演出家であるジョヴァンニ・ヴィットーリオ・ローシーが、東京の帝国劇場歌劇部(のちに洋劇部に改称)に教師として招聘されたことに始まる。しかし、興行面では振るわず、わずか4年で洋劇部は解散された。当時の日本人出演者たちの技術不足に加え、バレエやオペラ、それらの根幹である西洋音楽を鑑賞する文化的土壌がそもそも培われていなかったことが原因だろう。

しかし、この状況はわずか数年で一変した。大正6(1917)年にロシア革命が勃発すると、20世紀を代表する作曲家セルゲイ・プロコフィエフをはじめとするロシア系芸術家たちが、シベリアからアメリカに亡命する際の経由地である日本で公演を行うようになった。日本の観客の鑑賞力が高まるにつれて、ヴァイオリニストのミッシェル・エルマンなど海外の一流芸術家たちも積極的に招聘され始めた。





『パヴロワ女史露西亜舞踊劇番組 丸の内帝国劇場』の表裏。大正11(1922)年9月10日から13日まで上演される予定の演目が掲載されている。



国劇場専務取締役だった山本久三郎が談話を寄せている。

この公演は多くの日本人に衝撃を与え、バレエという芸術に開眼させた。反響の一端を、著名人の文章から辿ってみよう。

芥川龍之介は「アマリイラ」には辟易した」としつつも、「瀨死の白鳥」については「僕は兎に角美しいものを見た」と賛辞を送っている。これに対し谷崎潤一郎は、「アンナ・パヴロワの舞踊は世界的に著名だけれども、なあにあの程度のものならば、少くとも日本人は驚かない。われ／＼の方にも菊五郎のやうな舞踊家がある」とやや冷淡である。しかし、当の六代目尾上菊五郎は、「瀨死の白鳥」の「あの死ぬ感じをパヴロバはどうして出しているのだろうか」と疑問に思い、「すつかり道具方に化けて」楽屋に忍び込み、上手からパヴロワの動作を観察したという。パヴロワが「一つも息をしていない」ことに気付いた菊五郎は、終演後に、「若しあのまま幕が下りなかつたとしたらどうする？」とパヴロワに尋ね、「私の素晴らしい終焉です。このまま死んでしまつたら、と思うことが何回もあるんです」との回答を得た。そして菊五郎もまた、「娘道成寺」を「あんまり氣持よく踊れたから」鐘の中で死んでしまいたいとい、パヴロワ同様の氣持になつたことが一度ある

## パヴロワの前に来日したバレリーナ

日本が迎えた最初の世界的バレリーナは、大正5（1916）年6月16日～18日に帝国劇場で公演を行ったエレナ・スミルノワ（1888-1934）であろう。スミルノワは、パヴロワと同様にマリインスキー劇場のプリマ・バレリーナであり、ディアギレフのバレエ・リュスにも参加したことがあった。翌月にペトログラード（現・サンクトペテルブルク）で調印された第四次日露協約に向けての文化交流を目的としたこの公演は、日本におけるバレエ受容という点ではひとえに時期尚早であり、当時あまり話題にならなかった。なおこのときスミルノワも、日本初演となる「瀕死の白鳥」を踊っている（振付はパヴロワと異なる）。



『マチネー 露国舞踊並びに合奏 大正5年6月16-18日 丸の内帝国劇場』[1916] <請求記号VA251-1684>

スミルノワの公演で観客に配布された三つ折りの簡易なパンフレット。裏表紙の三越の広告には、浜田四郎によるキャッチフレーズ「今日は帝劇明日は三越」が記されている。

と述懐している。真の芸術家には、洋の東西を問わず相通するものがあるのだろう。

パヴロワのバレエに最も深い感銘を受けたのは、当時の若い世代だろう。のちに映画評論家となった淀川長治は、13歳で鑑賞した神戸公演で、「瀕死の白鳥」にハンカチを「咽喉につめこむほど涙を落として泣いた」。バレエの美しさを「身の毛がよだつほど知った」淀川は、生涯にわたってバレエも愛好した。

のちに音楽・舞踊評論家となった当時15歳の蘆原英了は、「『瀕死の白鳥』や『トンボ』を見て、胸の打ち震える思いをし」、「この一夜がわが運命に決定的な作用をもたらさし、舞踊研究の道へと進むことになったと回顧している。なお、今回紹介した資料は蘆原の旧蔵品である。蘆原が収集したバレエやシャンソン、演劇、サーカス等に関する膨大な資料

（蘆原英了コレクション）は、昭和55（1980）年に蘆原本人から国立国会図書館に寄贈の申し出があり、翌年の蘆原没後に正式に寄贈された。

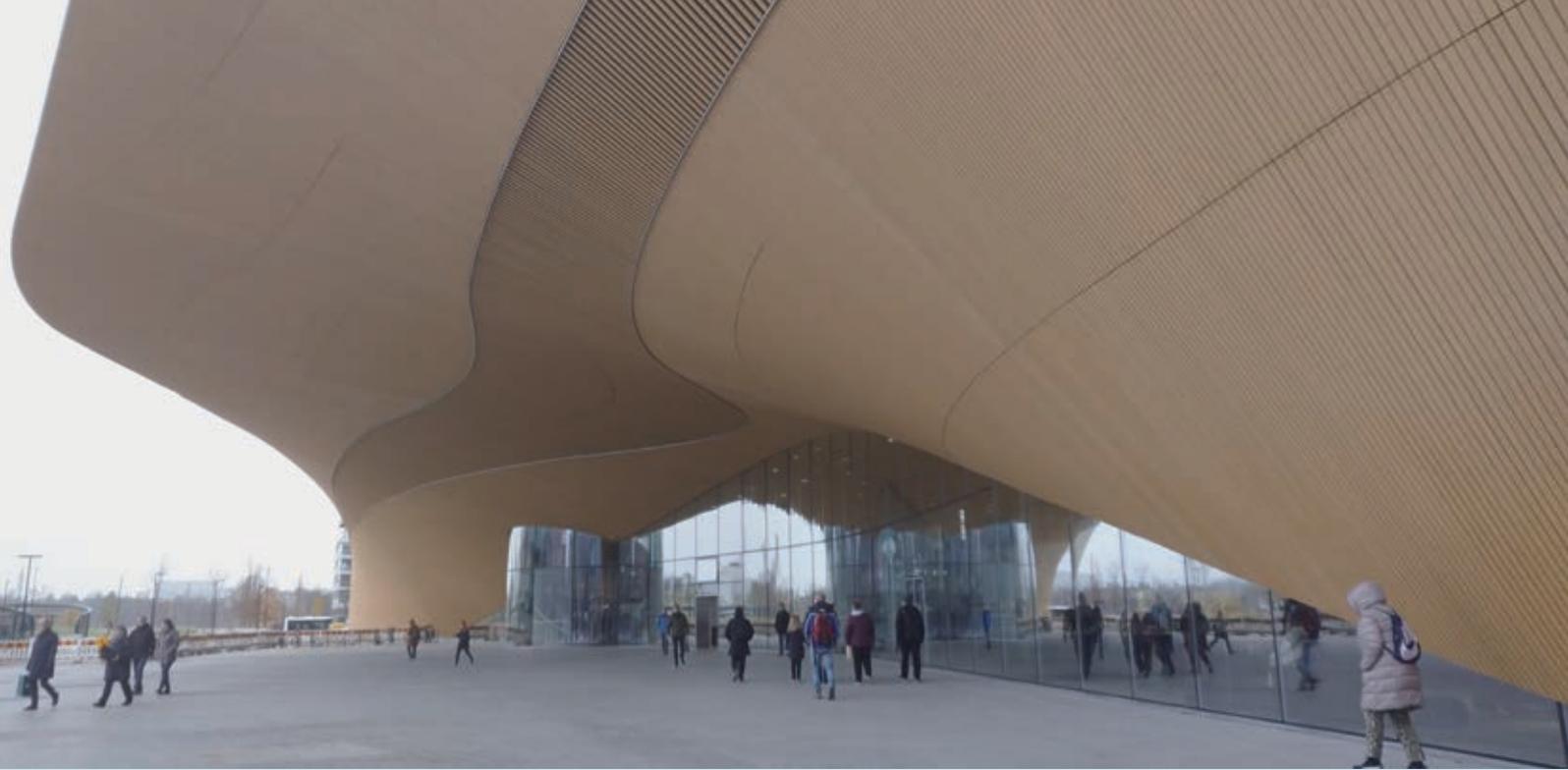
たった一度限り見た舞台が、ある人には運命を変え、人生を覚醒させるほどの衝撃を与え、またある人には生涯にわたる深い感動を刻み込む。

今般のコロナ禍では、数多くの公演が中止になった。インターネットによる配信に活路を見出す動きも盛んだが、生の舞台の存在意義が失われることは決してないだろう。なぜなら、舞台芸術は出演者と観客とが同じ劇場空間を共有し、魂を交感することに、本質的な創造の契機があるからである。

全世界の劇場にかつての活気が一日も早く戻ってくることを祈念して、筆を擱きたい。

### ○参考文献

- 「赤坂歴史散歩(7)」『東京人』35(12)=431:2020.11 都市出版<請求記号 Z8-2560>  
 海野 敏、小山 久美「日本のバレエ教育の実態および課題 第2回『バレエ教育に関する全国調査』に基づく考察」『舞踊学 Choreologia』(40) : 2017 舞踏学会<請求記号 Z11-1500>  
 「西洋と日本の舞踊」『谷崎潤一郎全集 第11巻(神と人との間 痴人の愛)』谷崎潤一郎 著 中央公論新社 2015<請求記号 KH934-L1734>  
 渡辺真弓 著『日本のバレエ 三人のパヴロワ』国立劇場運営財団情報センター 2013<請求記号 KD385-L4>  
 東宝株式会社演劇部 監修『帝劇ワンダーランド 帝国劇場開場100周年記念読本』東宝演劇部 2011<請求記号 YU17-J637>  
 嶺隆 著『帝国劇場開幕 今日帝劇明日は三越』中央公論社 1996<請求記号 KD11-G10>  
 「帝劇の露西亜舞踊」『芥川竜之介全集 第9巻』紅野敏郎 [ほか] 編 岩波書店 1996<請求記号 KH43-G1>  
 「アンナ・パヴロワ——不滅の白鳥」『私の舞踊家手帖』淀川長治 著 新書館 1996<請求記号 KD363-G3>  
 「不死の白鳥・パヴロワ」『舞踊と身体』蘆原英了 著 新宿書房 1986<請求記号 KD363-7>  
 「瀕死の白鳥」「娘道成寺」「おどり」尾上菊五郎(6世) 著 時代社 昭和23<請求記号 766.9-067ウ>  
 公益社団法人日本バレエ協会「舞踊年鑑公演データベース」<https://dancedata.jp/> (最終アクセス日: 2020年10月2日)



# 世界図書館紀行

Helsinki Central Library *Oodi*

ヘルシンキ中央図書館

中川 紗央里

2019年10月にフィンランドの首都・ヘルシンキで開催された研究データ同盟（RDA）第14回総会に参加した折、会議の合間に、開館からちょうど1年を迎えたヘルシンキ中央図書館（通称Oodi（オーディ））に立ち寄りしました。Oodiは、そのスタイリッシュな建築や新しいサービスで、当時既に日本でも話題になっていましたが、実際に訪れてみると、思った以上にアクセス至便、大勢の市民や観光客で賑わいながらも、ゆったりとした時間が流れる不思議な場所でした。本稿では、Oodiについて、一訪問者としての立場からご紹介します。





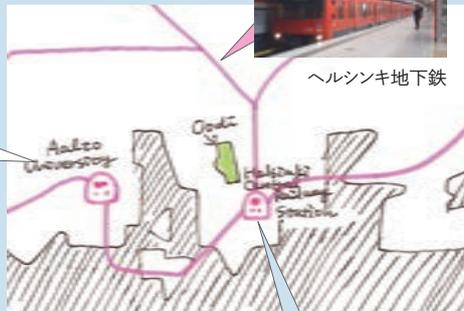
アールト大学の名は、前身であるフィンランド工科大学の卒業生で、フィンランドの20世紀を代表する建築家・アルヴァ・アールト（1898-1976）にちなみます。アールトは同大学のキャンパスのデザインの大部分を手がけました（上画像は講堂）。なお、RDA総会のメイン会場となった同大学の Student Center Dipoli（下画像）は、Oodiを設計したのと同じ ALA Architects の建築です。



RDA 第14回総会の会場となったアールト（Aalto）大学は、ヘルシンキ市のお隣・エスポー市（Espoo）にあります。アールト大学から Oodi のあるヘルシンキ中央駅へは、地下鉄でたったの15分。エスポー市は後述する「ヘルシンキ首都圏公共図書館ネットワーク」に含まれていたり、アールト大学と Oodi の「Kuutio（クーティオ）」が接続されていて展示会をやっていたり、実はつながりの深い関係です。



ヘルシンキ地下鉄



ヘルシンキの玄関口であるヘルシンキ中央駅。Oodi は駅の北西方向約 200 m に位置し、徒歩数分と好立地。



## 設立の背景

Oodi は、フィンランド建国100周年の記念事業の一つとして、新しい時代を象徴する図書館として、2018年12月5日に開館しました。設計担当には、これまでに、ヘルシンキ市を中心に、空港、大学、地下鉄駅など大規模な公共施設を手掛けてきた実績を持つ ALA Architects が担っています。

フィンランドの首都・ヘルシンキは、フィンランド湾に臨む入江の奥に位置し、「バルト海の娘」の別名を持つ美しい都市です。人口約66万人、さいたま市よりわずかに小さな（陸地面積約214 km<sup>2</sup>）市内には、37の市立図書館があります。

そのうちの一つであるヘルシンキ中央図書館（Helsinki Central Library Oodi、以下、愛称の「Oodi」と呼びます。）は、ヘルシンキ市内の中心部、ヘルシンキ中央駅に隣接するカンサリストリ広場に位置しています。「中央」の名を冠しますが、これは「すべての人に開放されている、住民のための公共スペースの中心地」という意味合いであり、ヘルシンキ市立図書館の中央館としての役割は Oodi の北約4.5 kmにある「パシラ図書館」が担っています。



正面から見た Oodi。開館時間は平日8時～22時、土日10時～20時。



レストランは、館内で行われるイベントのためのケータリング等にも対応。



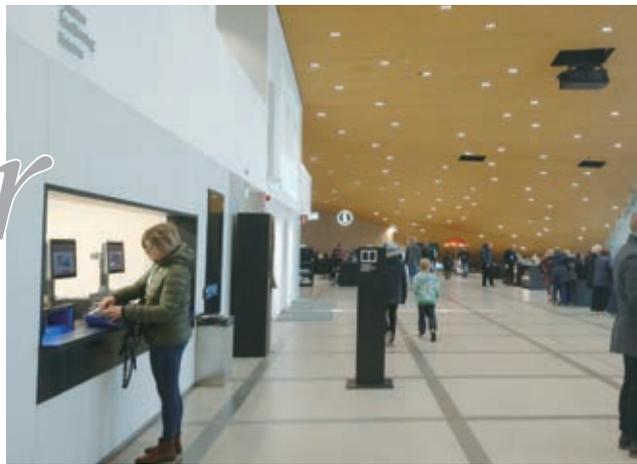
カレリアンピーラッカ（ミルクがゆと卵サラダが入ったパイ）。その名のとおり、フィンランドの原風景といわれるカレリア地方発祥だそう。



# 1st Floor

(上) 看板やサインは公用語であるフィンランド語とスウェーデン語、そして英語の3か国語で表記されています。

(下) ロビーの様子。



社が国際コンペで選ばれました。新たな図書館にどのような機能を持たせるかについては、イベント、ワークショップ、パブリックコメント等を通して市民から要望を集め、それを反映するという、市民参加プロジェクトの形式が取られたそうです。愛称の Oodi も公募により、600以上の候補から選ばれ、フィンランド語で「頌歌」「英語の Ode に当たる語で、神々や君主の栄光を讃える歌」を意味しています。

## 設備とサービス

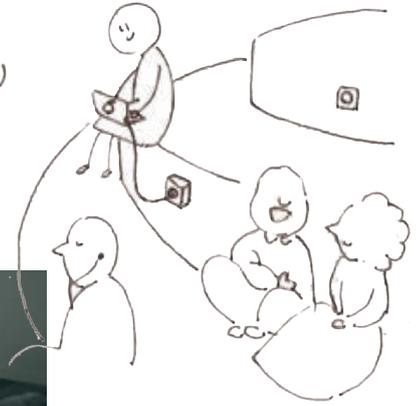
Oodi は、3階建て、南北に長く、延べ床面積は1万7000㎡のアーチ型の建物です。外壁を覆う木のファサードには、フィンランド産のトウヒ材が使われているそうです。特徴的なのは、先述のコンセプトの通り、館内空間のほとんどがオープンなスペースになっていること。建物内部の具体的な構造について、1階から順に見てみましょう。

### 1階

エントランス、多目的スペースの場  
エントランスを入ると、柱のない広々としたロビーが利用者を迎えます。1階には、蔵書の自動貸



2Fフリースペースは  
利用者が  
思い思いに過ごせる場所  
PC用いたり  
パソコンで  
おしめたりして



アーバン・ワークショップの様子。右上から時計回りに、ミシン、大型プリンタ、マルチモニタ付コンピュータ、3Dプリンタ。

## 2nd Floor



(左) ゲームスペースでは、楽しそうにマリオカートのレースが展開されていました。

(右) PCとモニターが整備されたワークステーション。映像編集やプログラミング作業に取り組む利用者の姿も。

出・返却サービスがあるほかは、最大250名を収容可能な多目的ホール、国立の視聴覚機関 (KAVI) が運営する映画館等があり、主に人々が交流するための多目的スペースとして活用されています。また、ヘルシンキ市のサービスやイベント等の観光情報、移民向け情報等を入手できるインフォメーション・センターや、ヘルシンキ市の都市環境プロジェクトやEUの活動を紹介する展示スペースがあり、市民も観光客も必要な情報を入手できるようになっています。更に、地元企業が経営するカフェレストランもあり、大勢の利用者で賑わっていました。

### 2階

ワークショップ、学習、交流の場

2階は、市民が仕事や学習のために利用できるコワーキングスペースです。1階に比べて天井が低くコンパクトな空間に様々な機器や機能が詰め込まれており、まるでラボのような雰囲気を感じさせます。

アーバン・ワークショップと名付けられたスペース(いわゆる「メイカースペース」)には、3Dプリンタ、大型プリンタ、UVプリンタ、レーザーカッター、ミシン、パッチメーカー等、モノづくりに必要な機材が

# 3rd Floor

1階から3階までを貫く螺旋階段は、市民に「この図書館は誰のためのものか」とアンケートし、集まったメッセージを刻んだ『Dedication』という名のパブリックアート作品です。例えば、「kaikille (すべての人のために)」、「meille (我らのために)」、「vauville (赤ちゃんのために)」など。

1944年アートあるある(?)  
おもしろいのも 残かりたい  
ある



アフロのために



世帯主  
のために



子育て者のために

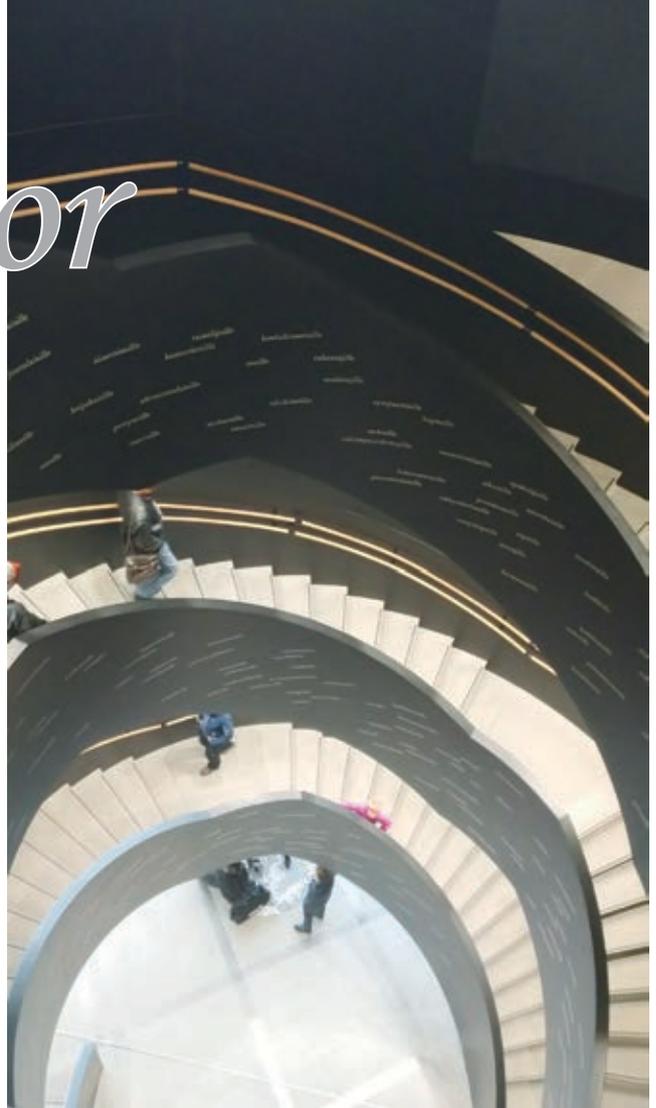
3階フロア全景（南側から撮影）。



ジェンダー関係の資料を集めた「レインボーセルフ」などもあります。

フロア中央には、約10万点の蔵書、雑誌、新聞、映画、ヘルシンキ市立図書館で最大規模を誇る楽譜、ビデオゲーム・テーブルゲーム等の資料を納めた書架が並びます。求める資料が *Out!* になる場合は、ヘルシン

3階 **ブックヘブン** (本の楽園)  
螺旋階段を上った3階は、「ブックヘブン (本の楽園)」と呼ばれており、ここが図書館サービスのメインフロアです。まるで白い雲のような起伏のある天井を間接照明の明かりが照らし、生きた木があちこちに配され、リラククスできる空間作りの工夫が見られます。



テーブルゲームのコーナー。

揃っています。その奥には、調理室、音楽の練習や録音、写真やビデオの撮影等ができるスタジオ、グループ学習室等があります。これらの設備はほぼ無料で利用でき、ヘルシンキ市立図書館の予約システム *Varamo* から予約できる仕組みです。  
また、エレベータ付近には、没入空間 *Kunto* (クンティオ) と呼ばれるイベントスペースがあります。これはタッチパネル式のスマートガラスに四方を囲われた90㎡ほどの空間で、この設備を活かし、メディアアート作品の展示会や公開講座等が開かれているそうです。



## 3rd Floor

南側の小高いエリア。

キ市首都圏の公共図書館ネットワーク (Helmet Helsinki Metropolitan Area Libraries) からの取り寄せが可能なほか、Helmet が提供する電子図書館「e-library」のコンテンツ約340万点も利用できます。

フロアの両端は、小高く盛り上がった構造になっています。北側は子ども向けのスペースとして児童書コーナーや遊び場、お話しのための部屋やイベントルームが備えられ、無料のお話し会や子供向けコンサート等のイベントが頻繁に行われています。一方、南側のひと際高いエリアでは、大人向けに、作家とのトークイベント等の催しが行われています。書架を中心に、幅広い年齢層の利用者が集うことのできる場所が設けられていることが印象的でした。

この日はあいにくの寒空でしたが、建物西側には「市民のバルコニー」と名づけられた広いデッキがあり、晴れた日にはここで読書をしたり展望を楽しむことができます。このバルコニーから国会議事堂と同じ目線の高さで望むことができることが、Oodi が民主主義のための場であることを象徴していると館内ツアーで紹介されていました。

## Oodiの初年度の評価と実績

Oodi は、ここまで見てきたように、従来の図書館サービスに加え、市民の多様な活動をサポートする場／市民の交流を生み出す場としての機能を備えたユニークな図書館だと言えるでしょう。Oodi の初年度は、Public Library of the year 2019 (IFLA がオープンで機能的な設備を有し、創造的な活動をしている新設公共図書館に贈る賞) のほか、様々な建築賞を受賞、TIME 誌により「世界で最も偉大な場所」に選ばれる等、華々しいスタートとなりました。

Oodi 自身は、2020年2月5日にウェブサイトに公開した記事の中で、2019年の実績として、Oodi の開館や図書館サービスの拡大(楽器、道具、スポーツ用品、ゲームの貸出等)等により、ヘルシンキ市の図書館全体の利用が活性化され、①予想を超える利用があったこと(Oodi の2019年の来館者は当初目標の250万人を上回る310万人となり、ヘルシンキ市立図書館全体の利用数も延べ900万回(前年比約40%増)に達した)、②Oodiで開催されたイベントは7,000以上のべり、延べ30万人以上が参加した



〇odには  
伝統的な図書館の  
機能に加え、あらゆるセクターの  
「対話性」「つながり」を生み出す  
ことで、本からの図書館、本からの  
民主主義の死に立ち  
体現しようとしているのかもしれない”  
※当日のメモより

窓の向こうが「市民のバルコニー」。窓ガラスは雨粒で曇っているわけではなく、雪の模様がデザインされています。写真の右端に写る建物がフィンランドの国会議事堂。

○参考文献

ヘルシンキ中央図書館  
<https://www.oodihelsinki.fi/en/>  
 フィンランド統計  
[https://www.stat.fi/til/vamuu/2020/07/vamuu\\_2020\\_07\\_2020-08-25\\_tie\\_001\\_en.html](https://www.stat.fi/til/vamuu/2020/07/vamuu_2020_07_2020-08-25_tie_001_en.html)  
 フィンランド公共図書館統計  
<https://www.libraries.fi/statistics>  
 ALA Architects  
<http://ala.fi/>  
 吉田右子、小泉公乃、坂田ヘントネン、  
 希著『フィンランド公共図書館躍進の秘密』新評論 2019<請求記号 UL252-M1>  
 ※サイトアクセス日：2020年9月20日



キッズスペース。なおブックヘブンのあちこちに敷かかれているラグも、テキスタイルアーティストによるアート作品。  
 Photo: Risto Rimpipi

## 2020年 世界的な変化の潮流の中で

こと、③来館サービスのみならずオンラインサービスも大きく進展し、オーディオブック、電子雑誌のダウンロード数がそれぞれ84%、97%の増となり、Helsinkiのサイトを延べ1290万人以上が利用したこと等を紹介しています。

今年2020年は、新型コロナウイルスの世界的流行により、図書館の来館サービスも大きな影響を受けました。

〇odを含むヘルシンキ市の文化サービスは3月18日にサービスを全面的に停止。閉館中には、ブックヘブンを活躍する本の自動運搬・ガイドロボットVearaの映像紹介等が行われ、図書館へ行けない利用者を楽しませました。5月4日から、閉館前に貸出したままになっていた資料の返却を受け付けはじめ、5月8日から自動貸出・返却機を用いた予約・貸出・返却サービスを段階的に再開、6月にはヘルシンキ市の図書館サービス全体がほぼ通常に戻り、閉鎖

されていた閲覧室やワークスペースも再開されました。しかし、本稿を執筆している9月現在も、対面サービスでなく自動貸出サービスの利用を推奨したり、ワークスペースは定員の50%に制限したり、一部の機材の貸出を当面の間停止する等、「新しい生活様式」に即したサービスを行っているようです。

そのような状況下ではありますが、8月20日には、アーバン・ワークショップに写真やビデオの撮影ができる防音ルームが新たに開設されたとのこと。またeLibraryでは、オンラインで利用可能な電子書籍や電子雑誌等のコンテンツの紹介や利用方法のガイダンスのほか、社会的孤立が心配される子供たちのためのコミュニケーションツールについて紹介記事を公開するなど、幅広い目的、利用者向けのサポートに積極的に取り組んでいます。

市民が集うための場所としてスタートした〇odが、変容する社会の中でどのような変化、進化を遂げるのか、今後の取組からますます目が離せません。



国際子ども図書館開館20周年記念展示会

# 平成を彩った 絵本作家たち

入場  
無料

Japanese Picture Book Authors of the Heisei Era (1989-2019)

2020年 9月29日(火) ~ 12月27日(日)

会期が変更になる場合があります。最新情報については、国際子ども図書館ホームページなどでご確認ください。

会場



国際子ども図書館 レンガ棟3階 本のミュージアム

開館時間

9時30分~17時

休館日

月曜日、国民の祝日・休日、毎月第3水曜日(資料整理休館日)

<https://www.kodomo.go.jp/event/exhibition/tenji2020-03.html>

国際子ども図書館は、国立国会図書館の支部図書館です。平成12(2000)年に国立の児童書専門図書館として開館し、令和2(2020)年は開館20周年にあたります。この20年、ひいては平成の30年余りの間に、日本の絵本や絵本作家たち、またそれらを取り巻く環境は、様々に変化しました。

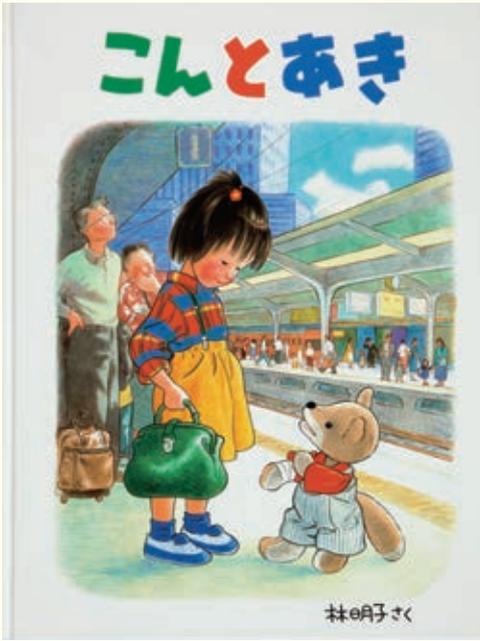
展示会「平成を彩った絵本作家たち」では、国際子ども図書館の歩みとともにあった平成の時代に活躍した日本の絵本作家35名に焦点を当て、約200点の資料を通して平成を振り返ります。個性豊かな絵本から、平成という時代の多様性の一端が感じられることでしょう。



展示会で取り上げる絵本作家の中から一部を紹介します。

## 林明子

雑誌などのカットを描くイラストレーターをしていた頃、当時の同僚で絵本作家の五味太郎の紹介により『かみひこうき』（小林美文、『かがくのとも』1973年11月号）の絵を担当し、絵本に携わり始めました。『はじめてのおつかい』（筒井頼子作、1977年刊）など、多くの物語の世界を鮮やかに描くとともに、『こんとあき』のように自身でストーリーの創作も手掛けるようになりました。丁寧な取材と多彩な画法で、幅広い年齢層に親しまれる絵本を作り出しています。



『こんとあき』【Y18-4137】  
林明子 さく 福音館書店 1989

きつねのぬいぐるみのこんと、女の子あきの小さな冒険の物語。困難な旅を乗り越え、成長していく。

## 荒井良二

フリーのイラストレーターとして活動する中で編集者の土井章史と出会い、平成3（1991）年に商業出版としての初の絵本『ユックリとジョジョニ』を発表しました。明るく鮮やかな色遣いと、斬新、大胆、奔放な作風で、国内外で評価されています。アニメーション、舞台美術、ライブペインティング、芸術監督など、幅広く活動しています。

『ユックリとジョジョニ』【Y18-5484】  
荒井良二 作 ほるぷ出版 1991

アコーディオンと歌が得意な男の子ユックリと、ダンスが得意な女の子ジョジョニとの出会いを描く。



※【 】内は国立国会図書館請求記号。本稿に掲載するのは、全て国際子ども図書館所蔵。



『そらまめくんのベッド』【Y17-M99-1145】  
なかやみわさく・え 福音館書店 1999

わがままなところもあるが、本当はとても素直なそらまめくんの、自慢のベッドをめぐる物語。

### なかやみわ

企業のキャラクターデザイナーを経て、時代を超えて人々に愛され続けるものを作りたいという思いから絵本作家を志し、絵本作家の川端誠や編集者の松田素子の講座で学びました。デビュー作『そらまめくんのベッド』（『こどものとも 年中向き』1997年5月号）の〈そらまめくん〉シリーズを始め、個性豊かで愛らしいキャラクターを生き生きと描き、多くの作品がシリーズ化されています。



**かがくいひろし**  
特別支援学校の教員を務めながら絵本を制作し、平成17（2005）年に50歳で絵本作家としてデビューしました。教員時代の経験を基に、読者を元氣付けるような、笑いを引き出す絵本作りを追求し、平成21（2009）年に急逝するまでに16冊の絵本を発表しました。代表作である『だるまさんが』のだるまを始め、もち、布団など、日本的なモチーフが数多く描かれています。

『だるまさんが』【Y17-N08-J88】  
かがくいひろし さく ブロンズ新社 2008  
だるまさんの豊かな表情、ユニークな動き、シンプルな擬音語による、赤ちゃんも楽しめる絵本。

## ヨシタケシンスケ

大学卒業後、ゲーム制作会社勤務などを経て、イラストレーターとして活躍しました。平成25(2013)年に刊行された初の絵本『りんごかもしれない』は、目の前のものに対する固定観念をくつがえし、「…かもしれない」と可能性を考えぬくユーモラスで自由な発想が好評を博しました。日常の中のありふれた出来事をユニークな視点でとらえ、発想を飛躍させて面白さやおかしさを見出しています。読者の共感を引き出すような、クスツと笑える作風が特徴です。



『りんごかもしれない』【Y17-N13-L351】  
ヨシタケシンスケ作 ブロンズ新社 2013  
目の前のりんごはりんごではないかもしれない、  
という思いつきから、様々な可能性を提示する。

### 【本展示会で紹介する35名の絵本作家】※展示会場での紹介順

林明子、片山健、武田美穂、いとうひろし、宮西達也、あべ弘士、駒形克己、新宮晋、スズキコージ、荒井良二、たむらしげる、小林豊、降矢なな、出久根育、酒井駒子、どいかや、工藤ノリコ、島田ゆか、なかやみわ、いわいとしお、三浦太郎、かがくいひろし、高部晴市、田中清代、伊藤秀男、西村敏雄、長谷川義史、鈴木のりたけ、tupera tupera、みやこしあきこ、荒井真紀、ミロコマチコ、きくちちき、ヨシタケシンスケ、ヒグチユウコ

本展示会では、約200点の資料を出展します。  
国際子ども図書館へのお越しをお待ちしています。



# 国立国会図書館で働いています

no.10

Final

将来の世代を考えたときに、  
自分の世代の立ち位置に  
こだわってはいられません



企画協力課協力係長としてどんなお仕事をされていますか。  
海外から子どもの本の関係者を招いたり、大使館などの外部機関と連携して、講演会やイベントなどを企画して運営のロジをするのが、例年であれば一番大きい仕事です。今年はコロナで状況がかなり違いますけど。

仕事が減ってしまっ  
た？  
逆に、国際子ども図書館（以下「ILCL」）開館20周年記念国際シンポジウムができなくなったので、オンラインで何かできないか検討したり、今までに経験がない検討事項が山積みです。

担当業務の2つ目は、全国の児童サービズ担当司書のための研修の企画や運営のロジです。児童文学連続講座は、今年は初挑戦のウェビナー（Webinar）<sup>(2)</sup>で、定員はなんと千名で募集しました。

千名!?

例年申し込みが多くてお断りしていたんです。東京に来られない方も全国にいらっしゃるので、ウェビナーで門戸が広がりました。

3つ目は、国内外の図書館関係者が来館した時の接遇や館内見学の案内。4つ目は子ども本に関するニュースの調査・情報発信や、児童文学連続講座の講義録の編集・刊行といった発信系ですね。

多岐にわたりますね。イベントすべて自分たちで企画するんですか。

外部の機関からお話してくるものもありますし、自分たちで企画するものもあります。うれしかったのは、

念願の韓国絵本の講演会を企画して実施できたこと！  
韓国の絵本が面白いというのは、ここ最近ずっと言われていて。少し前に韓国文化院で、KBBYという韓国の子ども本の団体の方がみえて講演会をしたときに、草の根の日報

絵本交流会の方とお話しして、ぜひやりたい！という話になりました。大変だったけど、たくさんの方に協力してもらって、大盛況で評判も良くて、うれしかったです。いまでも自席の後ろに当時のポスターを貼って眺めています。

シンポジウムに代わる開館20周年企画も、「SDGsと子どもの本」をテーマに企画中で、某有名作家さんに動画メッセージをお願いしようと検討しています。準備は大変ですけど、とても楽しみです。

## 白井 京 国際子ども図書館 企画協力課 協力係長

平成11 (1999) 年4月	調査及び立法考査局	調査資料課	資料係
平成12 (2000) 年4月	調査及び立法考査局	海外事情課	
平成13 (2001) 年4月	調査及び立法考査局	海外立法情報課	(名称変更)
平成22 (2010) 年4月	総務部	支部図書館・協力課	協力係
平成24 (2012) 年2月	総務部	支部図書館・協力課	協力係長
平成26 (2014) 年10月	調査及び立法考査局	外交防衛課	
平成29 (2017) 年4月	国際子ども図書館	企画協力課	協力係長

聞き手：総務課編集係  
令和2 (2020) 年9月8日インタビュー

逆に、苦勞は？

外国の方を招へいするときは、勤務時間が不規則になったり、連日の勤務になることもあります。国際アンデルセン賞受賞作家といった著名な方を迎えると緊張するし。でも実際には意外と大丈夫で、山を越えるとは強くなります(笑)。

英国、ドイツ、中国、カナダ、ロシア、フランス、サウジアラビア、韓国……、いろんな国の作家の方や図書館関係者とお会いして、さまざまな文化や背景を感じることがするのは興味深いです。たとえば、日本ではすごく緻密さが要求されることがありますよね。でも海外は日本と異なる大らかさがあって、その対比が面白いです。服装や挨拶や考え方も違うところがあって、その温度差の間に立つので、向こうの気持ちもわかるし、こちらの理屈もわかるし。

ILCLには希望されて異動したのですか。

なかなか異動できないと思っていたので、希望したことはありませんでした。子育てをしている中で、

「あ、今こんな本出ているんだ。面白い」とか、子どもの本に対する興味はありましたけど。でも、今は天職だと思っています(笑)。ILCLに異動できてすごくうれしく感じるのは、「子どもの本は世界をつなぎ、未来を拓く！」っていう開館当初からある活動理念を実感したことと理想がある、そのことに何より感動しました。

国立国会図書館(以下「NDL」)そのものも法律で「日本の民主化と世界平和に寄与する」とうたっていますが、ILCLは未来を担う子どものためっていうのが大きいですね。

素晴らしいです。子どもの本の関係者は平和を愛する方が多いんです。

もうすぐ刊行される、国立国会図書館開館七十年記念館史の編さん委員として、ILCLについて執筆もされましたね。

みんなの思いが一つになって奇跡的に誕生したことを実感しました。特に、NDLは児童サービスを直接行っ

てきたわけではなかったんですよ。それを、当時の職員が一生懸命に、一から立ち上げて、今があるわけで、草創期の職員は、経験がないなかで、様々な期待を背負って、本当に大変だっただろうと思います。

◆ ◆ ◆  
白井さんは韓国語ができる語学の人というイメージがあります。調査及び立法考査局(以下「局」)の海外立法情報課(海外事情課)が長かったですね。

合計10年いました。日本の国政審議に役立ちそうな韓国の立法情報について、法律を翻訳して紹介する仕事です。自分が大学院まで専攻してきたことをそのまま続けられるという感じで、深く韓国を知ることができるのがすごく楽しかったです。当時はまだ韓国語をできる人がほとんど局にいないくて、お役に立てるといえるのはうれしかったです。

大学では現代朝鮮半島論を専攻されたとのことですが、そもそもどうして韓国？

高校生の頃に冷戦が終わって、南北朝鮮はこれからどうなるっていうことが話題になっていきました。マスコミ・報道機関、特に新聞社やテレビ局の国際特派員に憧れていて、朝鮮語ができる報道関係の就職に強いらしいと聞き及んでおり(笑)。でも当時は、政治的に難しいところがあって、立ち位置というか思想が問われる世界でした。あと朝鮮語の辞書持っているって「え、なんで？」とよく聞かれました。かなり、少数派だったと思います(笑)。

◆ ◆ ◆  
今、韓国は人気ありますよね。

自分子どもがスマホで踊っているとか、若い子向けのアプリやショップに韓国語のロゴが入ったグッズが並んでるとか、「MEMEつけていたら普通に韓国語の歌が流れ



児童文学連続講座の講義録

(1) ロジ=ロジスティック業務の略。裏方業務。  
(2) 「ウェブ」と「セミナー」を組み合わせた言葉。インターネット上の研修。

てくるとか、驚きです。私が海外立

法情報課に在籍していた10年の間に

も韓国社会が急速に変化している

と感じていました。政策でも、韓国は

日本の一歩先を進んでいる面がある

ように思います。例えば取り調べの

可視化とか、英語を小学校から教え

るとか、昔、韓国で議論になり制度

化されたことが数年後に日本でも制

度化されるというケースがあります

し、図書館政策もすごく先進的だ

と思います。

支部図書館・協力課ではどんなお仕  
事をしていましたか。

今のお仕事の東京本館版といったと

ころで、海外立法情報課が一人での

井戸掘りだったら、ここは「四方八

方から多種多様な弾が飛んでくるの

を、係全員で協力して打ち返してい

る」ようなイメージです。大変だけ

ど、仕事のやり方から館内全体の業

務についてまで、とても勉強になり

ました。

でも、英語を頻繁に使うのがすごく

大変でした。係の中で一番英語がで

きなくて、文字通りポロポロと涙を

こぼしながら勉強しました。今では、  
あの時頑張っておいてよかったと思

います。

韓国語では入館直後から翻訳や通訳  
に駆り出されていましたよね。

1年目から業務交流の通訳をしまし

た。通訳の仕事は大変だけど楽しく

て、通訳案内業免許をとって東京都

に登録したり、専門の通訳学校に

通ったりもしました。でもコロナ禍

の今は、海外の方の訪問もないです

し、相当スキルが落ちていると思

います。

報道機関ではなく、NDLを指そ  
うと思つたきっかけは？

現実には、やっぱり女性が働くのは

厳しい面がありました。韓国留学中

や大学院のころ、外部の研究会など

で報道機関の方ともお付き合いが

あったんですが、どうにも女性とい

うことで「下」に見られていると感

じたんです。

母がILO（国際労働機関）駐日事

務所に勤務しながら子どもを3人育

てて、公務員は男女の違いはなく働

けるという印象がありました。NDL

は学部や院のころ資料複写を利用

して、当時まだ東京本館にあつた  
アジア資料室のカウンターにいた

女性職員に「女性の働きやすさ」を  
聞いたんです。

いきなり!?

「働きやすいですよ」と、話してく

ださいました。その方は、私が入館

したときちょうど入れ違いで退職さ

れましたけど、その後偶然にお会い

する機会がありました。

白井さんご自身も、お子さんは3人  
いらつしやるとのこと。仕事しなが

ら通訳の専門学校にも通つて……。

育児と仕事との両立という点で忘れ

られないのは、3人目の子どもを妊

娠中、前期破水してしまって、入院

中にベッドの上で陣痛がくるのを待

ちながら法律訳の校正を終わらせた

ことです(笑)。当時エレベーター

のない団地の4階に住んでいて、未

が仕事でいなかったので、小さい子

ども2人を風呂に入れたり、忙しく

動いていたせいだと思つてです

ど。出産したらしばらく仕事ができ

ないから、病院に校正ゲラとPCを

持ち込んで、陣痛が今くるか今くる

かって焦りながら何とか猛スピード

でガーって終わらせました。結局、

陣痛はこなくて帝王切開になりました

た(笑)。

すごくたくさん周囲

の人に迷惑をかけて

きて、泣きたい思い

をしたことも多かつ

たです。でも母に「い

まこの瞬間はとんで

もない大変なことを

してしまっている

と思うかもしれない

けど、後から思えば全

然大したことじゃな

いから」と言われて。

今、振り返ると本当

にそうだと思います。あとから恩返

しできると思つて、若い方は、多少

図々しく頑張つてほしいです。

◆ ◆ ◆

今後、NDLは、またILCLはど  
うあるべき、またどうなつていつた  
らよいと思いますか。

NDLの、「国の文化遺産を集めて

次世代のために長く守り、それを

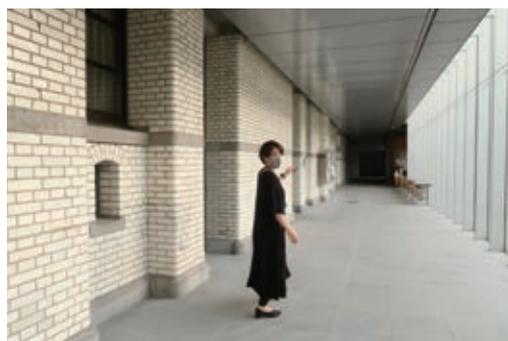
もって国会をサポートする」という

基本的な役割は変わらないと思いま

す。でもその発信ツールや、メディ

ア自体はどんどん変わっていく。だ

から、それに柔軟に対応するために



も、経験者採用などで人材をもっと流動化して良いと思う。専門性を保つのは大前提としても、外からの空気を入れるのは大事。もっと挑戦でき、失敗を許容できる組織になる、いいと思います。

失敗したら終わり、みたいなのは日本全体でそうなのかもしれないです。石橋をたたいてたたいてたき過ぎで、状況が急に変化すると対応しきれないって、よくありますよね。世界の児童サービスが大きく姿を変えつつあるなかで、日本も変化を求められているように思います。

IFLA（国際図書館連盟）の年次大会の報告記事<sup>(3)</sup>で、生きるためのリテラシーを身につけてもらう、というのが印象的でした。具体的にどういうサービスなんですか？

IFLAのサテライトミーティングの開催地がセルビアだったんですが、同じ本を読むプログラムであっても、例えば、かつて紛争地だったセルビアの女の子のために、どうやったら強く個を保って生きていられるかみたいなことを、小学校中学

年から高学年の女の子と本を読みながら行うグループセッションについて紹介されてました。

日本では子どもの貧困や教育格差が問題になっていますね。

情報格差も問題ですよ。韓国では情報格差の是正は図書館の責務なんです。あとは、これから格差が問題になると思うのはプログラミングとかコーディングとかのデジタル関係のリテラシー。リテラシーには、文字活字だけではなく、デジタルリテラシー、メディアリテラシーや、それを使いこなすスキルを含みます。もってデジタルトランスフォーメーション<sup>(4)</sup>に敏感になるべきだと思います。

もちろん、本に繋いでいくということもありますけど、もはや図書館はそれだけじゃなくなったじゃないですか。紙の本は私も大好きですけど、将来の世代を考えたときに、自分の時代の立ち位置にこだわってはいられない。人は、紙の本でも電子書籍でも、ライトノベルでも漫画でも動画でも、ゲームでもアニメでも、どんな媒体からでもそこから感動や物語や想像力は得られるものだと思います

ます。海外では、図書館にメイカースペース<sup>(5)</sup>があるのが当たりまえですよ。あと、動画の活用も。最近、動画すごいですよね？

なんでも動画で発信する時代になりました。

CDNL（国立図書館長会議）でも、各国の館長がグループディスカッションのあと短い動画を作成してました。IFLAでも、子どもたちが本を紹介する動画を作るコンテスト<sup>(6)</sup>が紹介されたり。子どもって学校で作文を書きますよね。動画を作るのって将来、作文と同じになると思います。自分の子どもの高校の文化祭、コロナ禍のせいもあって全部動画を作って配信するっていう「オンライン文化祭」なんですよ。ある大学のAO入試も、

今年3分以内で自己PRの動画を作って出す、文章での自己PRではなく、です。日本は公民館とか児童館があるか

ら、デジタル関係のリテラシー向上のプログラムはそういうところできるとは考えないかという考え方もあるようにですけど、児童館とか公民館って、そのプログラムがあるから、ある程度考えて申し込んで行くもの。でも図書館ってイベントがなくても本を読んだり借りたりするために行くものじゃないですか。そこでやるということが、すごく大事だと思うんですよ。

IFLAが国民全員に対してそういうサービスを提供することはもちろんできないけど、全国で紹介することはできるはずなんです。

未来の世代のために、我々がやるべきことがいっぱいありますね。そうなんです！



(3) 本誌2020年2月号11ページ。

(4) デジタルによる変革、再構築。

(5) 3Dプリンターなどの機器を備えた、創作活動を支援する公共スペース。8ページ参照。

(6) 本誌2020年2月号7ページ。

# 本屋に

# ない

# 本



筆跡をきく  
手記執筆者のはなし  
阪神大震災を記録しつづける会  
編集・発行 2020.3 245p 19cm  
<請求記号 EG77-M360>

「記録は記憶より長生きする」「震災で亡くなった方々は多くの人の心の中で生き続けています」。本書の言葉から、アンネ・フランクの「わたしの望みは、死んでからもなお生き続けること」という言葉を思い出した。人は記録を通じて生き続けることができるのだろうか。

『筆跡をきく』と題された本書は、平成7（1995）年に起きた阪神・淡路大震災を経験した6人の記録集である。一風変わったタイトルだが、本書の成り立ちと内容をふまえると、その意味もわかる。本書を刊行した「阪神大震災を記録しつづける会」は、震災後ほどなく発足した市民団体で、震災の手記を集め出版する活動を行った。名称どおり「つづける」ことを

目標とし、計11冊（448篇）の手記集を刊行、現在は年一回の手記執筆者の集いが主な活動となっている。ただ、その集いも年を経るにつれ病気や他界等で参加者が減る傾向にある。そんな中、執筆者の人々の佇まいを後世に残す方法はないかと考えた同会事務局長の高森順子さんは、これまで手記を寄せてきた人達にインタビューして記録に残すことを思いつく。そうして編まれたのが本書『筆跡をきく』である。本書には6名の手記執筆者へのインタビューとともに、6名が過去に書いた手記が収められている。震災当時、妊娠で入院していたおかげで命が助かり、そのことを残しておきたかったというほど被災者ではない」と語るも、

会に感銘を受け手記を寄せ続けた山中隆太さん。地震で亡くした子どもの名が次第に住民票をはじめ様々な書類から消えていき、「この子が生きていたということを残してほしい」との思いから手記を書いた小西眞希子さん。震災後は仮設住宅、復興住宅へと居を移し、そこでの暮らしや周囲の様子をつぶさに記録した綱哲男さん。避難所で自治会長を務め、やがて自身のお店を再開、その後はまちづくりに奔走した中村専一さん。被災したマンションの住民として2つの裁判に関わった経験を綴り、「いい勉強になりました」と振り返る本妙子さん。

震災は何をもたらし、人はどう受け止めてきたのか。手記にはそのときどきの各様の答えが記され、インタビューでは執筆の思い出が語られる。インタビューと手記の再録という構成も相まって、様々な変化を含みながら震災の経験が幾重にも語られる、長い時間をかけてできた1冊だ。また、執筆の経緯や工夫、手記ならではの表現など「書く」という営みに光があてられている点もユニークだ。本書は執筆経験をめぐる記録でもある。ところで、本書の装丁には、陽を浴びて風にそよぐ布地が写っている。あの人のインタビューで、手記は本箱にカーテンをかけていて見えないけれどすぐ近くに置いてあると語られていたが、この装丁は手記から見える景色を映しているのだろうか。本棚に置かれ、読まれるときを待つ手記の姿が目につく。

（益本 禎朗）

国立国会図書館は、法律によって定められた納本制度により、日本国内の出版物を広く収集しています。このコーナーでは、主として取次店を通さない国内出版物を取り上げて、ご紹介します。



# 議会開設百三十年記念 議会政治展示会の出陳資料から

12月10日から東京本館で開催する展示会の資料から、議会政治史の1コマを垣間見ることのできる資料を2点紹介します。

## 「議会の現状」

昭和4（1929）年3月21日



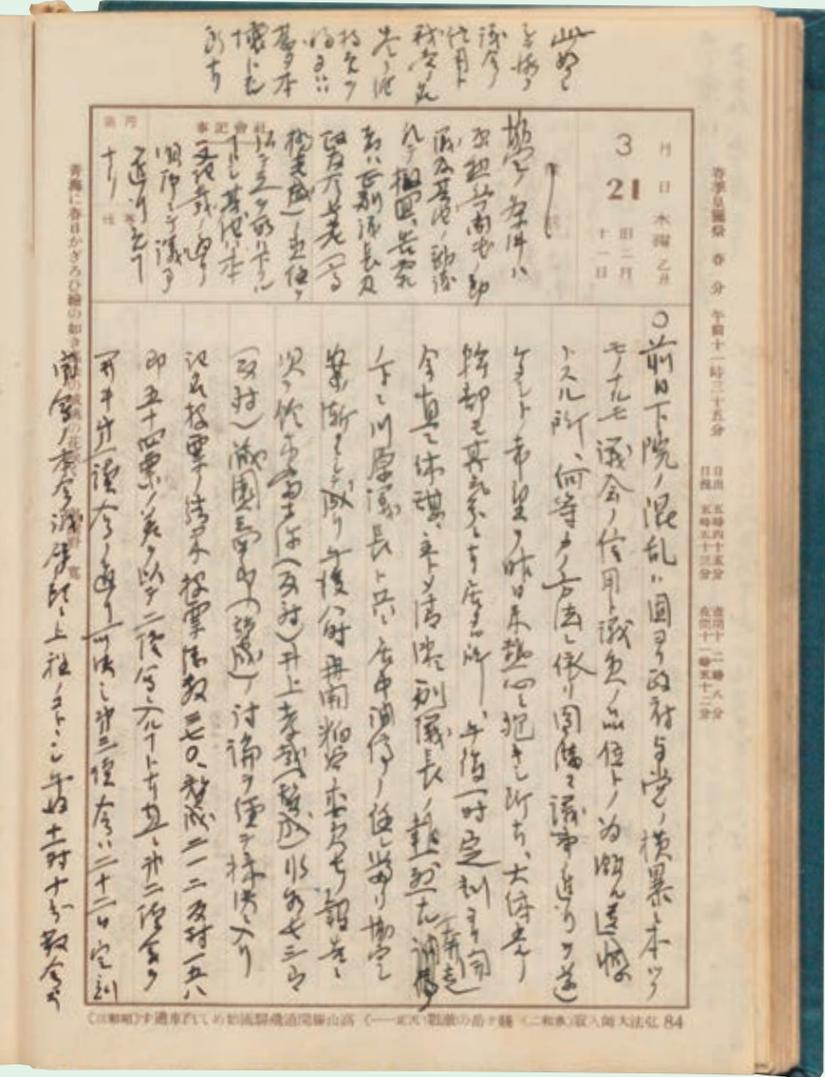
浜口雄幸  
「近代日本人の肖像」より

# 1929

大正13（1924）年から昭和7（1932）年にかけては、衆議院の第一党が与党となって組閣し、失政等により政権運営が行き詰まった内閣が総辞職におよんだ場合、第一野党が次の政権を担当する慣例になっていました（憲政の常道）。当時の二大政党であった立憲政友会と憲政会（のちに立憲民政党）の総裁が交代で内閣を組織していました。政党政治の進展に伴って政党間の争いも激しさを極め、法案をめぐって議場で暴力行為があるなど、しばしば議会が混乱に陥っています。昭和4（1929）年3月、小選挙区制法案をめぐり、与党立憲政友会側の強引な議事運営がきっかけで、野党立憲民政党議員が暴力をふるい、議場で乱闘が発生しました。立憲民政党総裁の浜口雄幸は日記に次のように書き綴っています。

「前日下院の混乱は固より政府与党の横暴に本づくものなるも、議会の信用と議員の品位との為頗る遺憾とする所」。このように乱闘の原因を与党に帰しつつも、審議が混乱することによって、議会や議員の信用失墜を招くことを憂慮しています。続けて、与党との間で妥協が成立し、議事が正常化したことを記しています。さらに欄外にはみ出して、「此の如くにして漸く議会の信用と我党の名誉を維持するを得たるは甚だ本懐とする所なり」と、その心中を吐露しています。

この年の7月に総理大臣となった浜口は、約2年後にも同様の憂慮と議会の浄化を『随感随録』（本展示会展示資料）に記しています。



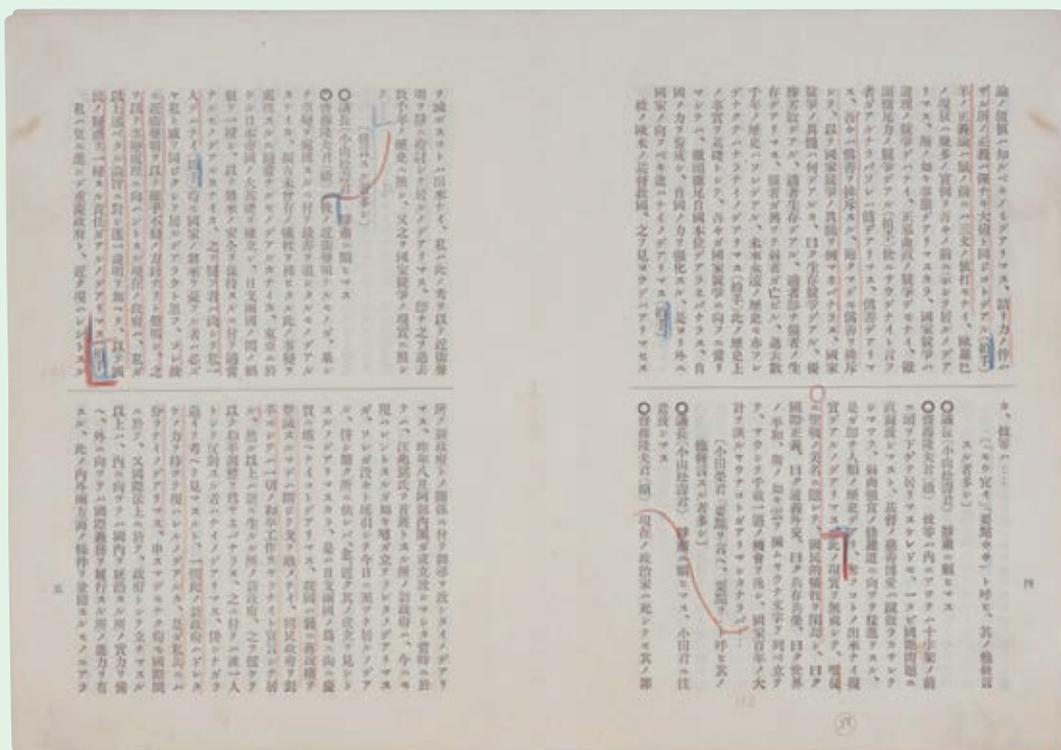
日記  
昭和4（1929）年【浜口雄幸関係文書2】  
<https://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/11443961/50> <館内限定>

# 衆議院本会議での齋藤隆夫 「反軍演説」削除

昭和15(1940)年2月



齋藤隆夫  
「近代日本人の肖像」より



齋藤隆夫演説削除問題資料 齋藤演説削除部分  
【昭和15(1940)年】【大木操関係文書 45-5】  
<https://www.ndl.go.jp/modern/cha4/description10.html>

# 1940

昭和12(1937)年7月7日に起きた、北京郊外での日中両国軍の衝突(盧溝橋事件)以降、中国との戦争がそれまでの局地的な戦闘から全面的なものへと拡大していました。

帝国議会の衆議院で、昭和15(1940)年2月2日に、立憲民政党の齋藤隆夫は、代表質問で日中戦争の処理につき米内光政首相を追及しました。昭和13(1938)年末に当時の近衛文麿首相が表明した処理方針の持つ欺まん性を厳しく批判し、政府が樹立工作を進める汪兆銘政権の統治能力に疑義を呈しながら、「唯徒ニ聖戦ノ美名ニ隠レテ国民的犠牲ヲ閉却シ、曰ク国際正義、曰ク道義外交、曰ク共存共栄、曰ク世界ノ平和、斯ノ如キ雲ヲ掴ムヤウナ文字ヲ列ベ立テテ、サウシテ千載一遇ノ機会ヲ逸シ、国家百年ノ大計ヲ誤ルヤウナコトガアリマシタナラバ：現在ノ政治家ハ死シテモ其ノ罪ヲ減ボスコトハ出来ナイ」と演説しました。これに陸軍などが憤慨したため、小山松寿衆議院議長が職権で演説の後半を削除しました。

この後、齋藤は懲罰委員会に付され、周囲からの議員辞職勧告を拒否するも、同年3月7日の衆議院本会議で除名処分が議決されるにいたりました。

削除部分を示す小冊子は、大木操衆議院書記官長が保持していたものであり、「閲覧後乞返却」と記されています。

国立国会図書館では様々なシステムをインターネット上で、あるいは、館内で提供しています。私たち職員も様々な業務でPCを使用しています。これらはすべて、ネットワークを通じて行われています。それらが安定して動くように構築し、運用する。それがシステム基盤構築系の業務です。システムは構築すれば終わり、ではなく安定稼働には適切な運用が必要です。構成する部品が物理的に壊れて交換することもありますし、通信先の追加やソフトウェアのバージョンアップに合わせた設定変更が必要なこともあります。

システムの安定稼働を脅かす存在の一つにコンピュータウイルスがあります。今年は全く予期していなかった新型コロナウイルスで全世界が大変なことになりました。コンピュータの世界でもデータの改ざん・消失、流出や、コンピュータの性能低下などを引き起こす、人為的に作られたやっかいなソフトウェアを「ウイルス」と呼んでいます。

コンピュータのウイルス感染や、その疑いがある際には、感染が広がらないようにネットワークから隔離し、感染有無などの調査のため、時には1億行以上にもなる膨大なログ（記録）を分析し

ます。過去に感染の疑いがあり調査し、大丈夫だとわかったときは胸をなでおろしました。手間と時間と心配を減らすには感染前に予防することが大切です。

病原体のウイルスであれば、うがいや手洗い、マスクをして、体の中への侵入を防ぎます。また、感染しないように予めワクチンを打ったり、健康的な生活を送ったりして、免疫力を高めます。新型コロナウイルス対策でみなさんも手洗いやアルコール消毒を頻繁にするようになったことと思います。

コンピュータウイルスも同様に、外部からの電子メールや、インターネットから入手するファイルについて、検査して、大丈夫だと判定したもののみを通すようなシステムにしています。また、セキュリティ対策ソフトを入れて動きを監視し、不審なものを止めたり、感染の要因となるソフトウェアの欠陥を修正したりして感染を防いでいます。

システムを、いつでも、いつでもどおりに使えるよう、私たちは日々奮闘しています。

（システム基盤課 血小板兼白血球）



ウイルスには、  
予防が大切です。

# NDL Topics

## 国立国会図書館の書誌データに関するお知らせ

令和2年12月28日をもって終了するNDL・Bibにかわり、令和3年1月5日から新たに開始する書誌データ提供サービスについて紹介します。

●国立国会図書館サーチの詳細画面からMARC形式およびMARCタグ形式のファイルをダウンロードできるようになります。

当館作成の書誌データが対象で、ファイル形式はNDL・Bibと同じです。

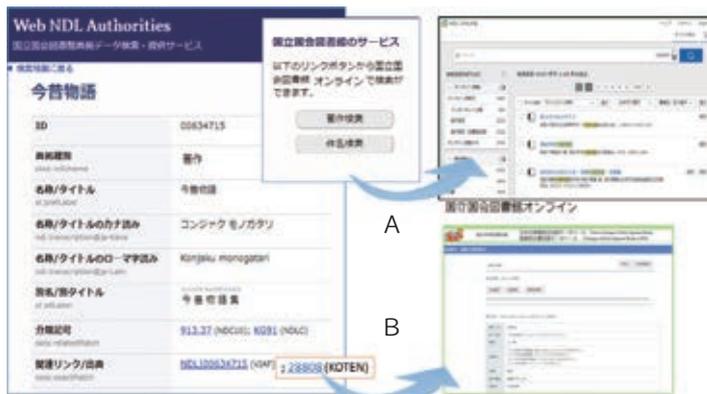


国立国会図書館サーチの詳細画面  
(画面右下にダウンロードリンクあり)  
<https://iss.ndl.go.jp/>

このほか、当館ホームページに毎週掲載するJAPAN/MARCデータもあわせてご利用ください。  
ホームV書誌データの作成および提供V書誌情報提供サービスVJAPAN/MARCデータ(毎週更新)  
[https://www.ndl.go.jp/data/data\\_service/inf\\_product.html](https://www.ndl.go.jp/data/data_service/inf_product.html)

## ●国立国会図書館典拠データ検索・提供サービス (Web NDL Authorities) の機能を拡張します。

- ・著作典拠、ジャンル・形式用語典拠の提供開始
- ・国立国会図書館のサービスのリンクボタン(著者名検索、著作検索、件名検索等)の遷移先を、国立国会図書館サーチから国立国会図書館オンラインに変更(A)
- ・日本古典籍総合目録データベースとの連携開始(詳細情報画面にリンクを追加)(B)



国立国会図書館典拠データ検索・提供サービス (Web NDL Authorities) の詳細情報画面 (イメージ)  
<https://id.ndl.go.jp/auth/ndla>

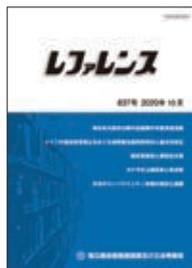
令和3年1月から開始する新しいサービスもぜひご利用ください。

(収集書誌部)

## 新刊案内

### レファレンス 837号

東日本震災以降の自衛隊の災害派遣活動―新型コロナ  
ロノウイルス感染症対応を含め―  
ドイツの極右政党禁止をめぐる連邦憲法裁判所判決  
と基本法改正―政党禁止のアポリアとヨーロッパ  
人権条約を通じた統制―  
固定資産税と課税自主権―自治体間競争と租税輸出  
の観点から―  
カナダの上院改革と党派性―トルドー政権下の上院  
議員任命制改革をめぐる―  
日本のコンパクトシティ政策の現状と課題―欧州と  
の比較を通して―



A4 160頁 月刊 1,000円(税別)  
発売 日本図書館協会

入手のお問い合わせ  
日本図書館協会  
〒104-0033 東京都中央区新川1-11-14  
電話 03(3523)0812

## 令和2年度東日本大震災アーカイブシンポジウム「これまでの10年とこれからの10年」

国立国会図書館は、東北大学災害科学国際研究所との共催により、東日本大震災アーカイブシンポジウムを開催します。令和3年は東日本大震災の発災から10年の節目の年となります。この間、各地で東日本大震災に関するアーカイブが構築され、国立国会図書館東日本大震災アーカイブ（愛称：ひなぎく）を通じた連携が実現しました。

本シンポジウムでは、東日本大震災の被災地における震災アーカイブの事例報告を行うほか、震災アーカイブに関する有識者を招き、東日本大震災に関するアーカイブのこれまでの取組を総括し、今後の方向性について議論します。

○日時

令和3年1月11日（月・祝日）午後2時～4時

○開催方法

ウェブ会議システム（Zoom）によるオンライン開催  
プログラムと登壇者（敬称略）

【事例報告】

北田竹美（大槌町副町長）

瀬戸真之（福島イノベーション・コースト構想推進機構 東日本大震災・原子力災害伝承館事業課課長代理）

【総括報告】

日比遼太（宮城県図書館資料奉仕部震災文庫整備班主事）

山口勝（NHK放送文化研究所メディア研究部）

中川透（国立国会図書館電子情報部主任司書）

柴山明寛（東北大学災害科学国際研究所准教授）

【パネルディスカッション】

（進行）柴山明寛

（パネリスト）南正昭（岩手大学教授、東日本大震災津

波伝承館運営協議会会長、報告者全員

○申込方法

「みちのく震録伝」(<https://shinokuden.irdes.tohoku.ac.jp/>)掲載のシンポジウム案内からリンクしている「参加申込みフォーム」にてお申し込みください。定員（300名）に達した時点で受付を終了します。

○問合せ先

東北大学災害科学国際研究所情報管理・社会連携部門  
災害アーカイブ研究分野  
電話 022(752) 2099

電子メール [archiveforum@irdes.tohoku.ac.jp](mailto:archiveforum@irdes.tohoku.ac.jp)

※シンポジウムの詳細については、「みちのく震録伝」ホームページをご覧ください。

## 第12回科学技術情報整備審議会

9月30日、第12回科学技術情報整備審議会が開催され、審議会委員・専門委員12名のほか、館長、副館長、幹事等職員16名が出席しました。第五期国立国会図書館科学技術情報整備基本計画策定に向けた提言を策定するため前回審議会で設置された基本方針検討部会における5回にわたる検討を経て、同部会が作成した提言素案について、竹内部会長から報告した後、審議を行いました。

委員からは、国民を巻き込んだ利活用促進のための取組の重要性や新型コロナウイルス感染症の影響を前提とした優先的な課題への対応の必要性について指摘があったほか、次期基本計画で、デジタル化・テキスト化を始めとする具体的な取組を着実に進めることを求める意見がありました。また、信頼度の高い情報へのアクセスや、デジタルアーカイブの連携・推進等における国立国会図書館の役割に期待が示されました。

今回の審議会での意見等を踏まえ、更に部会で検討し、今年度中に開催する第13回審議会において、提言がとりまとめられる予定です。

### 科学技術情報整備審議会委員名簿

（五十音順 敬称略）（令和2年9月30日現在）

委員長	石田 徹	日本商工会議所専務理事／専門図書館協議会理事長
委員	喜連川 優	情報・システム研究機構国立情報学研究所長／東京大学生産技術研究所教授
委員	西尾 章治郎	大阪大学総長
委員	竹内 比呂也	千葉大学副学長
委員	児玉 敏雄	人間文化研究機構国文学研究資料館長
委員	佐藤 義則	日本原子力研究開発機構理事
委員	塩崎 正晴	東北学院大学文学部教授
委員	戸山 芳昭	文部科学省大臣官房審議官（研究振興局及び高等教育政策連携担当）
委員	濱口 道成	国際医学情報センター理事長
委員	藤垣 裕子	科学技術振興機構理事
委員	村山 泰啓	東京大学大学院総合文化研究科・教養学部情報通信研究機構戦略的プログラムオフィス研究統括
専門委員	生貝 直人	東洋大学経済学部准教授
専門委員	北本 朝展	国立情報学研究所教授

\*審議会に関する情報は、左記に掲載しています。

ホーム▽事業紹介▽資料の収集▽科学技術情報整備▽科学技術情報整備審議会

<https://www.ndl.go.jp/collect/tech/council/index.html>

# 国立国会図書館月報

## 年間索引

### 一般記事

万葉集の本いろいろ：国立国会図書館所蔵資料より	1	7-22
こども霞が関見学デー	1	27-29
数字で見る国立国会図書館：『国立国会図書館年報 平成30年度』から	1	31-34
第85回IFLA年次大会	2	6-11
欧州の国立図書館と複写サービス (伊藤 暁子)	2	20-23
休館日のNDL	3	18-21
ミニ電子展示「本の万華鏡」第27回 百貨店ある記：買うときめき、めぐる楽しみ	3	22-23
関西館書庫棟完成！	4	1
国会会議録検索システム、日本法令索引のリニューアル	4	8-13
ある人が国立国会図書館のインターネットサービスで調べてみた②	4	14-17
『孔子聖蹟之図』の書誌的調査：刊行年を特定せよ！ (豊田 さおり)	4	18-25
「保存フォーラム」から見る資料保存の30年	5	20-25
就任のごあいさつ (吉永 元信)	6	1
上野の図書館：『夢見る帝国図書館』によせて	6	7-23
上野の図書館の系譜	6	8
写真で見る帝国図書館	6	9-13
上野の図書館にきた文豪、読んだ本	6	14-18
文書で紐解く上野の図書館：デジタルコレクションで見る帝国図書館文書	6	19-23
ジャパンサーチついに正式版公開へ！	7/8	7-9
座談会 ジャパンサーチの未来の話をしよう	7/8	10-19
ある人がジャパンサーチで調べてみた	7/8	20-21
関西館書庫棟探訪	9/10	6-15
第55回貴重書等指定委員会報告：新たな貴重書のご紹介	9/10	16-25
憲政資料室の新規公開資料から	11	4-11
ミニ電子展示「本の万華鏡」第28回 国会議事堂ができるまで	11	12-17
議会開設百三十年記念 議会政治展示会	11	18-19
表紙画家セレクション	11	26-29
国際子ども図書館開館20周年記念展示会 平成を彩った絵本作家たち	12	12-15
議会開設百三十年記念 議会政治展示会	12	21-23



### 凡例

憲政資料室の新規公開資料から	11	6-13
記事タイトル	掲載号(月)	掲載ページ数

今月の一冊

『萃果品定』：秋田県に結“果”した西洋リンゴの品評記録	(木屋 美香)	1	3-6
<i>The American diary of a Japanese girl</i> ：海を渡って描いたものは？	(曾木 颯太郎)	2	1-5
霧の中を行けば：中谷宇吉郎の書簡	(眞子 ゆかり)	3	1-5
<i>Die Schweiz in Japan</i> ：地図に載っていない「日本」	(吉井 伶奈)	4	3-6
『小児必用養育草』：江戸時代の育児書を読む	(青木 太一)	5	1-5
『ヴァイオリン独習自在 速成簡易』：憧れの西洋楽器、ヴァイオリンを弾きたい	(齊藤 史)	6	3-6
東豎子：描かれた男装の女官	(武田 和也)	7/8	1-6
笑う人々：『ニコニコ写真帖』	(山本 俊亮)	9/10	1-5
(特別編) 感染症克服への願い		11	1-3
永遠の白鳥：パヴロワ来日公演プログラムより	(富田 穰治)	12	1-4

本の森を歩く

(第22回) 伝説の講釈師、馬場文耕とその著作	(川本 勉)	3	6-13
(第23回) 記述の形式について	(井田 敦彦)	7/8	22-27

資料の世界の歩き方  
写真を読む

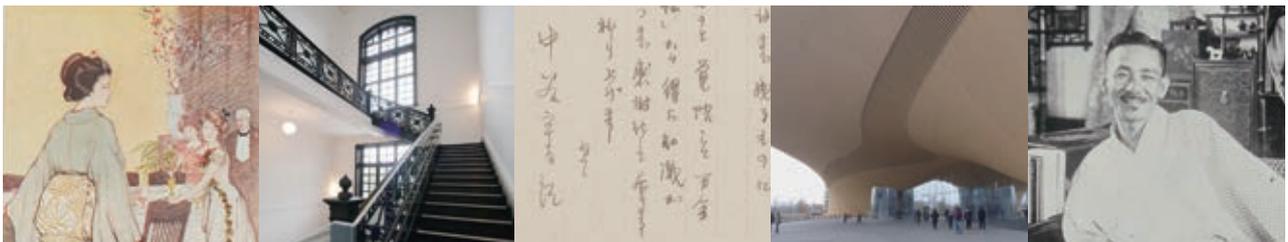
(第3回) 国会議事堂の中のカメラと記者：議会の報道と記録	(葦名 ふみ)	5	6-18
-------------------------------	---------	---	------

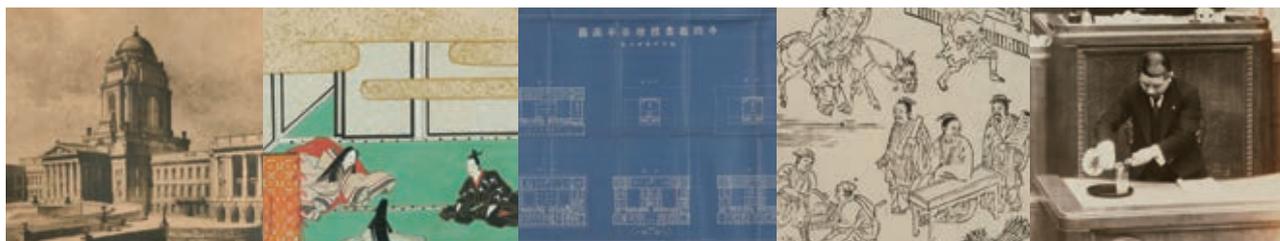
世界図書館紀行

ヘルシンキ中央図書館	(中川 紗央里)	12	5-11
------------	----------	----	------

国立国会図書館で  
働いています

(no.1) 奥村 牧人 総務部 総務課 課長補佐(広報)		1	24-26
(no.2) 川島 隆徳 総務部 企画課 企画係長		2	16-19
(no.3) 桐原 康栄 調査及び立法考査局 社会労働課		3	14-16
(no.4) 大友 敏之 収集書誌部 外国資料課 国際交換係長		4	26-28
(no.5) 宇野 理恵子 収集書誌部 資料保存課 和装本保存係長		5	26-29
(no.6) 豊田 さおり 利用者サービス部 サービス企画課 レファレンス係長		6	30-32
(no.7) 加藤 大地 関西館 文献提供課 複写貸出係長		7/8	28-31
(no.8) 葦名 ふみ 利用者サービス部 政治史料課 憲政資料係長		9/10	26-29
(no.9) 奥田 倫子 電子情報部 電子情報流通課 標準化推進係長		11	22-25
(no.10) 白井 京 国際子ども図書館 企画協力課 協力係長		12	16-19





## あの人の蔵書

(第2回) 瀬越囲碁文庫	(井上 奈智)	2	12-15
(第3回) 堀田両平コレクション	(河合 将彦)	6	24-28

## 本屋にない本

上毛かるたの世界：かるたが好き ぐんまが好き 群馬県立歴史博物館第97回企画展 (前田 紘志)	1	23
君は河童を見たか！：水辺の出会い 平成30年度夏季企画展 (鈴木 加成太)	2	25
没後50年藤田嗣治本のしごと：Léonard Foujita private on works 文字を装う絵の世界 -展図録 (福島 優寿)	3	17
ディエゴ・リベラの時代：Diego Rivera and His Contemporaries メキシコの夢とともに (中村 穂佳)	4	7
自転車の世紀：The century of bicycle 誕生から200年、新たな自転車の100年が 始まる (瀬川 智子)	5	19
理科室からふるさとの自然を見つめて：知れば知るほど面白い標本の世界 平成30年 度岐阜県博物館特別展図録 (繁元 康太)	6	33
新江戸東京たても園物語 (辻 慎太郎)	7/8	32
狩谷椽齋と経籍訪古志：大東急記念文庫所蔵の漢籍から (大沼 宜規)	9/10	31
芸術（アート）の保存・修復：Conservation for the art 未来への遺産 展覧会 (山田 春菜)	11	21
筆跡をさく：手記執筆者のはなし (益本 禎朗)	12	20

## 館内スコープ

「国立国会図書館って、すべての本があるんでしょ？」	1	30
100年後もよんでほしい	2	24
消費税率変更の裏で	3	24
「縦から横へ」のその先に	4	29
「とても困った！」	6	29
チームワークの賜物 関西館「書庫棟」誕生！	9/10	30
すてきな資料に、もっと「光」を	11	20
ウイルスには、予防が大切です。	12	24



バックナンバーは  
PDFでもよめるよ



<https://www.ndl.go.jp/jp/publication/geppo/>

冊子版のご購入については、公益社団法人日本図書館協会へお問い合わせください。バックナンバーも取り扱っています。  
〒104-0033 東京都中央区新川1-11-14 電話 03(3523)0812(販売)

# 12

NATIONAL  
DIET  
LIBRARY  
MONTHLY  
BULLETIN  
2020.12

NO.716  
DECEMBER  
2020

## CONTENTS

- 01 <Book of the month - from NDL collections>  
The Undying Swan  
—Program notes from Anna Pavlova's performances in Japan
- 05 Travel writing on world libraries  
Helsinki Central Library Oodi
- 12 Exhibition commemorating the 20th anniversary of the opening of the ILCL  
Japanese Picture Book Authors of the Heisei Era (1989–2019)
- 16 Working at the NDL, Episode 10 (final installment)
- 21 Exhibition on Parliamentary Government Commemorating the 130th Anniversary of  
the Establishment of the Diet
- 20 <Books not commercially available>  
*Hisseki o kiku*
- 24 <Tidbits of information on NDL>  
An ounce of prevention is better than a pound of cure
- 25 <NDL Topics>
- 27 Annual index to the National Diet Library Monthly Bulletin, Nos. 705–716

国立国会図書館月報

令和2年12月号 (No.716)

令和2年12月1日発行

発行所 国立国会図書館  
編集者 三浦良文  
責任者

印刷所 株式会社丸井工文社

〒100-8924 東京都千代田区永田町1-10-1  
電話 03 (3581) 2331 (代表)  
FAX 03 (3597) 5617  
E-mail [geppo@ndl.go.jp](mailto:geppo@ndl.go.jp)  
<https://www.ndl.go.jp/>

本誌に掲載した論文等のうち意見にわたる部分は、それぞれ筆者の個人的見解であることをお断りいたします。  
本誌に掲載された記事を全文または長文にわたり抜粋して転載される場合には、事前に当館総務部総務課にご連絡ください。  
本誌517号以降、PDF版を当館ホームページ (<https://www.ndl.go.jp/>) > 刊行物 > 国立国会図書館月報でご覧いただけます。



NATIONAL  
D I E T  
L I B R A R Y  
M O N T H L Y  
B U L L E T I N  
2 0 2 0 . 1 2

 国立国会図書館  
National Diet Library, Japan

